



# 共産党 桜井市長に新年度予算要望

## 子育て支援・インフルエンザ予防接種助成を

日本共産党小矢部市委員会は12月26日、2017年度小矢部市予算編成にあたっての要望書を桜井市長に提出しました(写真)。この間、市民から寄せられた要望をとりまとめたもので、64項目になります。全文は砂田喜昭のホームページに掲載しました。

子育て支援では、「新しい保育所づくりと運営に、保護者、地域住民の理解が得られるようにすること」「子どもインフルエンザ予防接種に助成を」「学童保育の預かり時間の延長」などを要望しました。

市から事業者に従業員のマインナーを通知しないよう求めました。総務省は、本年5月に各事業者者に郵送される市町村民税などの「特別徴収税額の決定通知書」に従業員のマインナーを記入するように市町村にすすめています。しかし、東京中野区では情報漏洩の危険があり、マインナーの記入をしないことになりました。

市から事業者へ、従業員のマインナー通知をしないことマインナー制に関して、

### 公共施設の総合管理計画

統廃合ありきではなく長寿命化で

公共施設の総合管理計画では、統廃合ありきの検討ではなく、それぞれの施設の役割を把握し、抜本的な長寿命化を求めました。市民活動サポートセンターの新総合会館への統合をしないよう要望しました。

## 12月市議会

### 砂田市議の一般質問

#### 地球温暖化対策を

#### 次期総合計画の柱に

砂田市議 2020年からスタートするパリ協定の具体化として、小矢部市としても温室効果ガス削減を施策の柱に据えて、温室効果ガス削減目標を持ち、その手段を検討することが求められる。

市の第7次総合計画(2019年度から10年間)の一つの柱として位置づけてはどうか。今から、市民や専門家を集めてこのための検討を開始すべきでないか。

#### 民生部長 市民や専門家による温室効果ガス削減の実行計画を策定し、第7次総合計画においても今後の政策を定めていきたい。次年度以降、早々の段階で取りかきたい。

砂田市議 再生可能エネルギーとして小水力とか太陽光、風力、太陽熱、それから木質バイオマス発電に取り組むことによつて、新たな産業、新たな雇用を生み出すことが可能になる。人口減少が盛んに議論をされているが、若者の定着にもつなげていく展望が開ける。

#### 街灯のLED化で、電気料金ほぼ半減

砂田市議 小矢部市内の街灯が全部LEDに切りかわった(2014年4月)。ある町内(街灯40口)で、以前の電気料は月額8,828円だったが、現在4,769円(と約半額になった。照明をLEDへ切り替えることも非常に有効だ。

#### 太陽熱温水器

#### 秋でも41度のお湯

太陽熱の活用についても、夏の晴れた日には50度から60度ぐらいのお湯が出てくる。11月の一日中晴れた日にも風呂の温度が41度になった。太陽熱は非常に強力なエネルギー源になる。この設備は24年前に23万円で設置したものが、全く問題なく使

#### 介護職員の処遇改善を

砂田市議 介護職員の処遇改善に実態調査を求めます。

#### 民生部長 市は平成28年8

月に認知症対応型共同生活介護事業所、グループホームを対象に職員の就労状況に関するアンケートを実施した。6月に連続して夜勤のあった事業所は全体の3割。連続夜勤日数の最多は3日間。勤務シフト作成で困っていることは、職員不足やパート職員が夜勤をしないことが多く職員の夜勤回数にばらつきがあること、休暇の希望が重なること、研修や出張に参加する場合の職員の補充、長期休暇や病欠の調整がたいへんなどの意見を聞いた。

#### 砂田市議 処遇改善の費用を税金でまかなうべきで、介護報酬で負担すると介護保険料の引き上げにつながる。

人材確保の重要性を、全国老人保健施設協会の東憲太郎会長が強調された。養成校の授業料をすべて免除し、通学している間の生活費も補助する手厚いサポートを行う案を出し、「基金の使い方を考えればできる。それくらいしないと解決しない」との考えを示された。これへの見解は。

#### 桜井市長 介護職員の人材確保が難しい現状をふまえた提案として注目できる。そのための人材育成は非常に重要と受け止めており、機会を捉えて国に働きかけていきたい。

今年は大政奉還から150年、「赤松小三郎」ともいう一つの明治維新を讀んだ。明治維新といえは坂本龍馬が有名だが、彼の「船中八策」には現存する資料の裏付けがないという。「真田丸」で知られる上田藩の赤松小三郎という人が、幕末(1867年5月)に「御改正口上書」という建白書を幕府や薩摩に提出していた。彼はこの建白書で公武合体を提唱したが、その政体は民主的で、6人の実務者による内閣と、普通選挙による二院制の議政局とした。薩摩と土佐の盟約(1867年6月)をつくり平和的な大政奉還と民選議員による議会制民主主義・主権在民の国づくりをめざしていた。この国づくり提言は日本人の中から生まれたもので、現憲法に通じる。決して外国の押し付けではなかった。ところが日本を中国と同様の植民地化を狙っていたイギリスが薩摩を通じて介入し(同年7月)、薩摩・長州同盟を結び(8月)、薩・土盟約を壊し(9月)た。そして翌年、明治元年、薩・長が鳥羽伏見の戦いで徳川政権を倒し、武力による明治維新という結果になった。明治政府は赤松らの議論を封印し、天皇を現人神とする絶対的権力による専制政治の道を歩んだ。その時代から、自由民権のためにたたかい続けた人々がいた。この流れを受け継ぐ日本共産党がこの正月、第27回大会を開き、野党と市民の共同で安倍自公政権を倒し、野党連合政府で憲法9条が生き、格差是正し国民一人ひとりが尊重される国をつくらうと呼び掛けた。37歳で暗殺された赤松の想いをも受け継いでいるのではなからうか。

## 子ども医療費、窓口無料

### 4月から 呉西地域全市が対象に

4月から、子ども医療費が呉西地域全市の病院・医院で窓口無料となります。小矢部市内はもとより高岡市、砺波市、南砺市などの保険医療機関等において、幼児及び小中学生は窓口負担なしで治療を受けられることとなります。小矢部市民は所得制限なしで、全ての世帯の子どもが対象になります。日本共産党と砂田市議が繰り返し実現を求めていました。